



# 復興の先に目指すは 日本一の長寿県

原子力発電所の事故のため、3月15日、双葉郡のすべての医療機関が避難。医師らは自らが避難者でありながら、避難所での診療に奔走しました。

8月、日本医師会が発足させたプロジェクト委員会。福島県医師会はこれに加わり、原子力発電所の事故で被害を受けた医療機関などに対するさまざまな支援に取り組みました。

震災から半年ほど経ったころ、精神疾患を発症する方が増加しました。そこで、津波による被害が大きかったいわき市や相馬市などを中心に、精神科医を含むJMATTIIチームが支援に訪れました。

5年の月日を経ても、被災地の復興・復興はまだ道半ばです。徐々に避難区域の避難指示解除が進められています。住民が安心して生活ができるよう地域医療体制を整備しなければなりません。今年、復興に向けた医療再生の拠点として、福島県立医科大学にふくしま国際医療科学センターが開かれます。将来、福島が日本一の長寿県になるように県・大学・地域医師会と協力しながら、県民の心と体のケアを行ってまいります。



福島県医師会 会長

高谷 雄三